

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

no
2

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

チュウホクドットコム

中北の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします

峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

第1回峡中・峡北地区地域教育推進連絡協議会が、6月23日(木)に北巨摩合同庁舎で開催されました。100名近くの方が集まり、協議会、研修会、地区全体会及び情報交換会が行われました。



協議会において、各地区の本年度役員が次のように決定しました。

峡中地区

会長 小松 重仁 氏

(南アルプス市教育委員会教育長)

副会長 牛奥 久代 氏

(甲府市女性団体連絡協議会会長)

石原 初江 氏

(甲府市小中学校PTA連合会会長)

峡北地区

会長 志村 臣市 氏

(韮崎市教育委員会教育委員長)

副会長 藤森 顕治 氏

(北杜市教育委員会教育長)

篠原 優子 氏

(韮崎市保育所連合会会長)

研修会：学校も地域もハッピーに！

一地域と連携したいいきいき学校づくり

昭和町立押原小学校校長 太田 充 氏

1 コミュニティスクール (CS) とは

・コミュニティスクールとは「学校運営協議会」(以下、「協議会」)がある学校のことで、校長の学校運営基本方針を協議会で承認してもらわないと運営ができない。

・文科省が進めているCSは、協議会と「学校支援地域会議(学校応援団とか、地域の方に積極的に関わってもらえるもの)」とが車の両輪のようにうまく働くことが望ましいとされている。

・CSの成果に関する文科省委託調査の結果をみると、デメリットはほとんどなく、メリットは非常に多い。にもかかわらずCSがなかなか広まらない理由は、管理職や教諭の勤務の負担が増えることだと思う。これが解決できれば、CSは広がり、学校も地域の協力が得られてうまくいくはずである。

2 押原小の特色

・押原小は130余年の歴史があり、30年前までは町唯一の小学校だった。地域の関心や期待が大きく、CS化を進めていくのに適する環境があった。

・平成16年に校舎を建て替えた。コンセプトは「学校の公園化」「エコスクール」「伝統と歴史」「快適居住空間」「バリアフリー」「地域開放」。特に地域開放型の学校を実現するため、地域の人専用の入口「地域開放口」を設けた。コンサートやギャラリーの開催など、文化ホールの的に使われたりもしている。新しい学校の形を追求した。



3 CSとしての取り組み

・学校・地域は絶好の教育素材であり、最大最良の教材・教具である。地域の方と共にやるというのが今までの地域学習と違うところである。

・学校や地域を取り巻く課題は、他の学校と同じようなものが押原小学校にも存在する。これを包み隠さず全て協議会に挙げて、こんな学校を作りたいというのと、こんな問題があるということを経験することからCSは始まる。協議会と地域会議が接近すると理想的なCSになっていく。

・押原小の地域会議は、学習支援、安全健康支援、環境整備支援の3つ。それ以外に連携を深める取り組みとして「CS推進事業」がある。学校見学会、給食の試食、スクールギャラリー、コンサートなどで、これらは、押原小独自のものである。

・今まで「地域」という言葉で捉えていたのを、地域の「人・もの・こと」に具体化

・CSでめざす学校像、CSでめざす子ども像を考える：当たり前前が当たり前前にできる笑顔あふれる日本一の学校

・押原小4基本方針：参加ではなく「参画」、「熟議」、協力ではなく「協働」、「互惠」

・具体的スタンス：「来て、見て、知って」学校に来て見てもらわなければ始まらない。

・今あるものをCSの視点で見直す。新しいことはしない。これ以上学校が忙しくなったら、確かな学力をつけるができない。地域と言っているものを、地域の人なのか、ものなのか、ことなのかを明確にして考える。

・3つのつ：「繋げ 続け 紡ぐ」今までの地域学習は地域と繋げることはたくさんあった。しかし、

講演の感想の一部です

・学校だけではなく、家庭だけではなく、地域全体で子供を育てていく姿に感動いたしました。人と人との繋がりが希薄になっていく時代だからこそ、将来を担う子供たちにはそのことを知って欲しいと思います。「繋げ 続け 紡ぐ」私たち大人が、自分たちの持っている力で子供たちを見守り続けていかなければいけないなと思いました。（女性 PTA関係者）

・CSというとハードルが高く、多忙化に拍車をかけるものというイメージがあったが、明確な視点を持ち、積極的に取り組むことによって、学校の活性化を図り、地域の文化の中心となる一つの方法であることがわかった。これからの学校（教育の場）のあるべき姿の一例として見ることで

「続け」て、「紡ぐ（成果を上げる）」ということにはあまりやれてなかった。そこで、この3つの「つ」の視点でCSをやろうと取り組んだ。教育課程も全部CSの視点で見直した。大変な作業だったが、これを通して見えてきたものも多い。

・今年の押原小CSのスローガンは「ひらく・つなぐ・むすぶ」。地域にひらく、地域とつなぐ、地域とむすぶ。

4 まとめ

1 「今あるもの」をCSを意識して見つめ直す

・地域と繋がろう、続けよう、紡ごうとする意識の高揚

・地域と繋がる、続ける、紡ぐ目的視点の明確化

2 取り組んでいく中で「見えてくる」

・地域とのつながりを意識し、実感する

・理論では見えないものが実践から見えてくる

3 学校に「来やすい雰囲気・場」をつくる

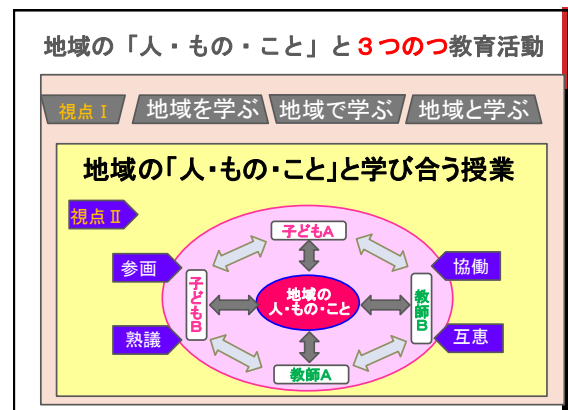
・学校と地域、住民との距離を縮める

・協力者の増加は、新たな活動への展開・発展

4 「押原小のCS」を創る

・押原小学校らしさの創造

・押原小学校だからできること



き、大変有意義だった。（男性 小学校関係者）

・かつて人間は衣、食、住を自分の手で作っていました。原材料からの「ものづくり」は、本来の人間生活を回顧させるものであり、それを教育課程の中に落とし込んでいく視点が素晴らしいです。児童たちは、多くのことを学んで、生きる力を身につけていくことと思います。また、生産から加工、販売の流れは、学校だけのマンパワーではとても対応できません。それを地域の方々を巻き込んで、交流したり学校開放したり、ともに課題を考えていくサポーターにしていってほしいことも感心しました。風通しの良い学校ですね。

（女性 支援学校関係者）

平成28年度 社会教育委員連絡協議会総会 ～社会教育の役割は～

6月9日（木）、山梨県社会教育委員連絡協議会通常総会が敷島総合文化会館で行われました。昨年度の事業報告・会計報告、今年度の事業計画・予算案の審議が行われた後、社会教育委員として県下の社会教育の振興に貢献された方の表彰がありました。県下で13名の表彰者のうち、中北地区管内の表彰者は、北杜市の大久保さかえ様、齊藤けさ子様、島口礼子様、島口礼子様の3名です。7年間にわたり、社会教育委員をお務めいただきました。



総会に引き続き、「地域と学校を支える社会教育委員の役割」と題し、茨城大学名誉教授菊池龍三郎先生の講演がありました。概要は以下の通りです。

○「地域」が大きく変貌している。

人口減少、高齢化、過疎化、孤立化（無縁社会化）

- ・「生きる」とは「人間関係の総和」である。
- ・ 絆を作りにくい人たちに、どう関わっていくかが社会教育の視点。
- ・ 孤立無業者（SNEP：「仕事をしていない」「結婚

したことがない」「普段ずっと一人か、一緒にいるのが家族のみ」の3つに該当する20～59歳の人）が急増。

- ・ ネット依存がSNEPを生み出しているのではない。SNEPはネットもあまり使わない。
- ・ 仕事がない状況が続くと社会や他人への関心を失ってしまう。
- ・ 仕事に就かなければ、すぐ社会から孤立してしまう。（性別、学歴、年齢、関係なし）

○社会教育の役割は「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」の醸成。

Social Capital：①信頼、②互酬性（持ちつ持たれつ）、③ネットワーク（人脈、絆）

◎社会教育委員の仕事は、自分たちで地域の状況を見て課題を考えるとところから始まる。



「やまなし少年海洋道中」参加内定者が決まる

6月5日（日）「やまなし少年海洋道中」の参加内定者抽選会及び事務連絡会が行われました。このイベントは、八丈島での8泊9日の自然体験活動を通して、心豊かでたくましい青少年の育成を目指すものです。今年も定員を上回る応募があったため、抽選で内定者を決めました。50名の定員を県内8つの地区に分け、男女比



も考慮するため、申込み終了の時点で内定となった人もいますが、県全体では約1.5倍、男子は約2倍の倍率です。

まず受付で事前抽選をして、その順番で予備抽選、さらにその順番で本抽選と3回の抽選を経て内定者が決まりました。本抽選は封筒中に結果が書いた紙が



入っています。本抽選の封筒を開くのは指示を待って一斉です。「開封してください」の指示を受けて封筒を開ける真剣な表情。そのあとは喜びと落胆が入り交じりました。

8月1日から始まる研修が実り多いものとなることを願っています。

中巨摩春季研究集会 講演「みんなの学校」の木村泰子先生

5月11日「中巨摩春季教育研究会」が橿形総合体育館で開かれ、映画「みんなの学校」で全国から注目されている大阪市立大空小学校初代校長・木村泰子先生の講演がありました。



講演は、不適応、発達障害など様々なレッテルで目の前の子どもを括らせず、教室を飛び出す、奇声を上げるなど不適応等、一人ひとりの事実から、どうしたら目の前の子どもが「学び」に向かえるのか、試行錯誤するなかで、全ての子どもと先生が「みんなの学校」を作ってきたことが伝わる内容でした。根底にあるのは、ぶれない人権意識と、全ての子が学びに向かおうとするものだという人間に対する信頼ではないかと感じました。

映画のシーンにもある木村先生の飾らぬ説得力ある語りに参加者一人ひとりが聞き入っており、明日からまた子どもに向きあう勇気生まれる講演会となりました。

忙しいときほど、子どもと・・・ 葦崎小「10秒の愛」推進キャンペーン



4月22日、葦崎小学校でPTA総会が開かれ、内田晃会長より「子どもって、忙しいときに限って、寄ってきます。子どもって、なかなか、さっとできません。子どもって、なかなか、はっきりと言えません。」

でも、たった10秒でいいのです。まず、子どもを抱きしめてあげてください…」と10秒だけでも子どもと真剣に向き合おうと＜葦小PTA『10秒の愛』推進キャンペーン＞が提案されました。

葦小PTA『10秒の愛』 推進キャンペーン

子どもって、忙しいときに限って、寄ってきます。

子どもって、なかなか さっとできません。

子どもって、なかなか はっきりと言えません。

でも、たった10秒でいいのです。まず子どもを抱きしめてあげてください。

たった10秒でいいのです。「早く！」って言う前に待ってあげてください。

たった10秒でいいのです。せかさずに、じっと聞いてあげてください。

すると、そこに「笑顔」が生まれます。

そこに「つながり」が生まれます。

たかが10秒、されど10秒「10秒の愛」は子どもを幸せにするのです。

仲島 正教

130回を迎えた親子支援活動 かおり幼稚園「子育てエンジョイランド」

6月18日（土）、かおり幼稚園（甲斐市篠原）の「子育てエンジョイランド」が行われました。この催しは、平成7年から始まり、今回で通算130回になります。

この日は、親子での「草木遊び」と題して、草や樹木の花や葉を使い、飾りや花束を作りました。つる草や大きな葉を使って子どもにお飾りをつけてあげるお父さんや、子どもと一緒に花束を作るお母さんなど、親御さんも楽しんでいました。充実した半日となりました。



地域教育フォーラムを開催します

期日：平成28年10月27日（木）14:00～16:30

会場：日本航空学園 J-shipホール

講演：「ワクワク子育て親育ち」

山梨県立大学 地域研究交流センター

平成28年度 『中北.com』 No.2

編集・発行 中北教育事務所

地域教育支援担当 飯田 矢崎

〒407-0024 葦崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>